



Flash News

(フラッシュニュース)

三重大学

第5号

目次

- 「地域貢献特別支援事業」採択される
- 学長候補者の選考日程が決まる
- 21世紀COEプログラム—本学の申請がヒアリングへ
- 特色ある大学教育支援プログラム (教育COE) 申請に向けて
- みえメディカルバレー事業の活動—みえメディカル研究会

お知らせ

- 「世界化時代における大学の挑戦と対応戦略」—韓国梨花女子大学で開催
- 三重大学教員データベース構築に向けて—生物資源学部でデモンストレーション
- 「ネットワーク社会におけるハイテク犯罪についての講演会」開催される
- 人文学部から
- 附属図書館から
- 投稿のお願い

「地域貢献特別支援事業」採択される



本事業は、自治体と国立大学との将来にわたる真のパートナーシップを確立し、大学全体としての地域貢献の組織的・総合的な取り組みを推進することを目的とした文科省の支援事業です。

本学の場合、これまで個々のレベルでは地域との連携の実績も多く、これらは本学の伝統のひとつでもあります。今後は、「個々のレベルから大学組織としてのレベル」での連携の積上げが求められております。図のように、本学では、地域貢献に関する全学的な推進組織として「地域連携推進室（室長：菅原庸副学長）」を、また、自治体との恒常的・永続的な連絡協議体制として三重大学・三重県および関連自治体からなる「地域連携推進協議会」を整備し、自治体と国立大学の双方が一体となって取り組む事業を協議会のワーキング部会で検討し、「美し国 三重のくにづくり～持続可能な魅力ある地域づくりを目指して～」を基本コンセプトとして事業申請をいたしました。申請74大学のうち、26大学が採択されました。

学長候補者の選考日程が決まる

学長選考会議は、6月18日（水）に第2回会議を開き、学長候補者の推薦・立候補に伴う日程、必要書類などの手続きと内容を決定しました。学長選考関係日程は、図の通りです。詳細については、本学ホームページをご覧ください (<http://www.mie-u.ac.jp/gakutyusen/index.htm>)。

年月日	事項
平成15年6月24日	学長選考公示
平成15年7月1日～ 平成15年7月31日	第1次選考候補者推薦・立候補期間
平成15年8月8日	第1次選考候補者決定公示
平成15年8月8日	第1次選考結果公示
経済法廷会議場401 平成15年10月20日 (13:30～)	公開討論会
平成15年10月6日 (11:00～14:00)	意向投票 意向投票結果公示
平成15年10月14日	第2次選考結果公示

21世紀COEプログラム—本学の申請がヒアリングへ

世界最高水準の研究教育拠点を大学に形成する標記プログラムに本学から申請した3件のうち“自然と光産業が協奏する未来型地域の創出”（学際・複合・新領域部門）がヒアリング課題に選ばれました。6月5日に東京で開催されたヒアリングには矢谷隆一学長はじめ富岡秀雄教授（拠点リーダー）、吉村哲郎教授（事業推進担当者）武田保雄教授（同）の4名が出席し、本学の将来構想、拠点形成計画などについて説明を行いました。6月下旬に採択拠点が決定される予定です。

特色ある大学教育支援プログラム（教育COE）の申請に向けて

標記プログラムについては、最近になって文科省の正式な枠組みが発表されましたが、申請数は各大学で1件と限定されました。詳しくは(財)大学基準協会のホームページをご覧ください (<http://www.juaa.or.jp/>)。

本学では、文科省への申請に向けて、プロジェクトチーム（主査：上野達彦副学長）を立ち上げ、6月5日に第1回教育COEプロジェクト会議を開催しました。応募いただいたプログラム(17件)をもとに、更に優れた特色あるプログラムとして本学から申請できるよう、精力的に作業を進めています。

みえメディカルバレー事業の活動—みえメディカル研究会

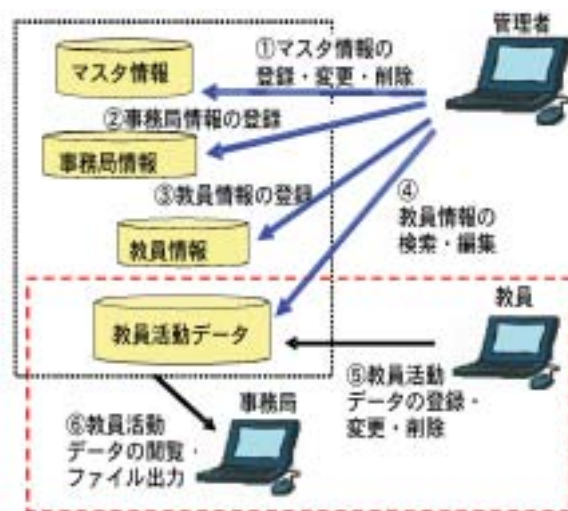
みえメディカル研究会（会長：菅原庸副学長）は、三重県の「みえメディカルバレー事業」の一環として、(株)三重TLOに運営を委託した「医療・健康・福祉産業分野」の研究会です。目的は、大学・公設研究機関等の研究者と企業とが、それぞれの課題に対して人的・知的交流を深め、産官学民の連携を促進させ、研究開発・技術開発に発展させていこうとするものであり、平成14年7月に発足しました。平成14年度には7つの個別研究会で計29回が開催され、延べ441名が参加し、さまざまな交流が深まりつつあります。平成15年度は、10の個別研究会を開催する予定です。本学の教官が個別研究会の代表として活躍しています。

「世界化時代における大学の挑戦と対応戦略」—韓国梨花女子大学で開催

5月23日と24日の両日、韓国梨花女子大学において、標記の国際シンポジウムが開催されました。日本、韓国、中国、アメリカ、イギリス、フランスの6カ国の大学関係者や大使館関係者が一堂に会し、世界化時代をリードできる大学の役割や機能とは何か、どのような戦略が必要かについて白熱した討論が行われました。法人化への取り組みが大きく問われている日本ばかりでなく、韓国や中国も変革の21世紀を駆け抜けるための研究や教育、社会への貢献における戦略を必死で探っていることが報告されました。本学から上野達彦副学長が参加し、「地域圏大学」を目指す本学の取り組みについて発表しましたが、参加者の大きな関心を喚び、実りの多い議論が行なわれました。梨花女子大学は、昨年から本学と一般協定を結んでおり、これからの国際連携を強めることが期待される中、10月に本学で開催される予定の第10回3大学国際セミナーの際にも関係者が来日し、引き続き意見交換を行うことになりました。

三重大学教員データベース構築に向けて— 生物資源学部でデモンストレーション

独立行政法人化に向けて整備が急がれている三重大学教員データベースは、全学レベルでのワーキンググループ(主査：畑中重光学長補佐)でその検討が進められています。ワーキンググループ発足時点で、すでにその設計に向け先行していた生物資源学部(広報委員会データベースワーキンググループ 主査：亀岡孝治教授)でデータベースシステムがほぼ完成したため、全学のワーキンググループの委員も参加し、そのデモンストレーションが生物資源学部で行われました。システムの概要は図の通りです。委員から出された指摘を踏まえた微調整の後、生物資源学部・医学部・工学部からシステムの試運転に入り、順次人文学部、教育学部にも対応できるシステムに拡張される予定です。



「ネットワーク社会におけるハイテク犯罪についての講演会」開催される

6月12日、本学遠隔事業室(室長：藤原和好学長補佐)の主催で、標記の講演会が三重県警察本部ハイテク犯罪対策室の伊藤寛人氏を迎え講堂小ホールで開かれました。ハイテク犯罪には、匿名性が高い、犯行の痕跡が残りにくい、不特定多数のものに犯罪が及ぶ、容易に国境を越えることができる等の特徴があり、そのため、犯罪を犯しているという意識・罪悪感が希薄になって、実社会よりも犯罪を犯しやすいということが述べられました。また、ハイテク犯罪は、特別な人による犯罪ではなく、交通事故のように、誰もが巻き込まれる可能性のある犯罪であり、しかるべき知識を持ってこの犯罪に対処する必要があるということが指摘されました。

お知らせ

人文学部から—人文学部創設20周年記念講演会予定

- 1) 日時：10月3日(金)
午後2時から3時半(講演及び質疑応答)
- 2) 会場：三重大学講堂(三翠ホール)
- 3) 講師：早稲田大学大学院
北川 正恭教授(前三重県知事)
- 4) 演題：「北京の蝶々、大学の自立」

講演会は、本学の学生・教職員だけでなく一般公開とさせて頂く予定です。詳細は追って広報させて頂きまので、多数の皆様のご聴講をお願い致します。その他、本学部教官による教育研究プロジェクトのワークショップ、インターネット会議などを10～11月頃に開催の予定です。

附属図書館から—三重大学出版会コーナーを設置

附属図書館では、5月下旬に「三重大学出版会コーナー」を設置しました。5月末現在、出版会から約70点の寄贈を頂いており、今後、出版会の刊行物すべての寄贈を受けることになっています。本学の重要な学術研究成果として、学内外の利用者に積極的に公開していく計画です。

・場所：入口ゲートを入ってすぐ左側の「寄贈図書コーナー」内
・利用方法：一般図書と同様
また、出版会刊行図書に限らず、本学の先生方の著作物についても、広く利用に供しておりますので、ぜひ図書館にご寄贈いただきますようお願い致します。

投稿のお願い

各種事項(法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光(hatanaka@arch.mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。

場合によっては、取材に出向きます。